

新「共通特論Ⅱ」：臨床腫瘍学各論

小児腫瘍

講義日：2022年11月19日（土）

講師：坂田 尚己（近畿大学医学部 小児科学 准教授）

要旨

がんの発生や生物学的特性において、小児がんは成人がんと異なります。小児がんの発症機序は未だ不明ですが、遺伝や胎生期における種々の要因が関与すると考えられています。小児がんの中には自然消退したり、消退したのちに白血病が発症したりする特異な病態があり、発がんのモデルとしても重要です。代表的な腫瘍は、白血病、脳腫瘍、神経芽腫、骨軟部腫瘍、肝芽腫、腎芽腫や胚細胞性腫瘍があります。また、16～39歳の Adolescences and Young Adults (AYA) 世代にも小児がんが発症しますが、AYA 世代特有の問題があり、小児と比べて治療成績は十分ではありません。本がんプロでは、小児・AYA 世代がんのライフステージに応じた医療の充実に貢献できる医療人育成を目的のひとつにしております。本講義では、小児がんの特殊性と小児・AYA 世代がん治療における多職種によるトータルケアの重要性について解説します。